

聖書箇所:ピリピ人への手紙2章6~11節

「夜空に輝く星のように」

【1】 従順であること

- ・“キリストの模範” = 「謙遜」に伴う「従順」
 - 従順 = 「聞き従う」
 - キリストは自らを低くし十字架の死にまで従われた
- ・キリスト者の目標 = 自分の救いの達成
 - パウロの励まし：キリストの御姿に日々近づくよう「…自分の救いを達成する」ように (ロマ 8:29~30)
- ・どんな時にも従順に
 - パウロがいる時もいない時も (参照 II コリント 2:9, 7:15, ピレモン 21)
 - 過去(使徒 16:14, 32~34)、現在、そして将来も
- ・信仰者の基本姿勢 = 神への恐れ (ピリピ 2:12, 詩篇 2:1, 申命記 32:5)

【2】 夜空に輝く星のように

- ・キリストを模範とした生き方とは
 - 「曲がった邪悪な世代のただ中であって傷のない神のこども」として
- ・暗く曲がった時代をまっすぐに生きるために
 - いのちのことばをしっかりと握ること
 - 聖書は「神が救いについて啓示しようとされたすべてを含み、信仰と生活との唯一絶対の規範である」(JECA 信仰告白第一条『聖書』)
- ・「夜空に輝く星のように」
 - 世の「光」 = 「星」(BDAG 他)



【3】 私は喜びます

- ・“喜びの手紙”：パウロを取り巻く環境はいわゆる「喜び」とは程遠い
- ・殉教の死を意識：「注ぎのささげ物」(参照 II テモテ 4:6)。
 - 生死問わずどんな状況でもキリストにあって喜ぶことを選んだパウロ
 - 聖徒たちにも、死刑さえも無駄ならず、キリストの日に誇ることができ故に共に喜んで欲しいと語った

▶ドイツ人牧師、ディトリヒ・ボンヘッフアーは第二次世界大戦の最中、戦争反対を叫びナチスに抵抗し逮捕・投獄、終戦直前に処刑されました。彼はいつも明るく人々を励まし、牢獄の看守でさえ彼に悩みを打ち明けたと言います。行く道の先には死が待っていると分かってからも、共にいてくださる神に信頼し続けました。彼が獄中で、クリスマスに婚約者に宛てて書いた最後の手紙に記されていたのが「よき力に守られて」でした。(『世の光-クリスマス賛美紹介ウィーク-2023年12月23日』)

▷曲がった邪悪な世代にあっても、主にある喜びを選び、「夜空に輝く星のように」、キリストの光を放つことができますように。